



▲ アートを使ったデジタルプログラム体験

や、町内各所で活動しています。プロデューサーはフード、アウトドア、ランブワーク、コミュニティの4部門での起業を目指します。そのうち、フード部門については、プロデューサーの1名が今年7月にオープンした「大雪かみかわヌクモ」で活動しています。

プロデューサーの活動

「大雪かみかわヌクモ」は、廃校になっていた旧東雲小学校を改装したもので、カフェスペースのほか、チームラボ社が開発した子供向けデジタルプログラム「あそび！天才プログラミング」を体験出来るとあって、町外からも人を呼び込む人気スポットとなっています。ここでプロデューサーはフード部門として、カフェでの活動の他、生産農家で研修を受けるなど、起業に向け日々スキルを磨いています。今夏は近所で栽培された町産メロンを使ったジュースの試作を行いました。今後は活動の中から、食の新しい

ビジネスが生まれることが期待されています。

ランブワーク部門では、ガラスメーカーのHARIO（ハリオ）から「地域が持続的に活性化するため、出来ることは協力する」と申し出があり、ハリオリンブワークファクトリー上川としてガラス細工を作っています。大雪森のガーデン内のガラス工房で製造することで、季節雇用であったガーデンの営業とあわせて、通年雇用に繋がりました。現在は部品づくりがメインとなっていますが、今後プロデューサーが主体となって活動し、まちを彩るガラス細工が生まれることが期待されています。



▲ ガラス工房での作業の様子

アウトドア部門は、プロデューサーの応募が一番多く、「上川町で自然と触れ合う仕事がしたい」という人や、大雪山などの自然に惹かれ町を訪れたことのあるなど、上川町の関係人口として関わってくれる人たちからも応募がありました。現在は、7月に加入したプロデューサー

が、層雲峡温泉近くの町営キャンプ場で訪日客らが楽しめる体験型施設の開発を目指しています。

コミュニティ部門は、教育や観光などの活動を行う部門で、「大雪かみかわヌクモ」で子供向けデジタルプログラムの運営に携わるほか、観光業では、翻訳業やパンフレットの制作などに向け準備をしています。さらに、幅広い活動として、企業から請負で仕事を受注したり、移住希望者や旅行者が、地域と交流できるイベントの企画などを目指しています。



▲ 小知井事務局長(中央)と大雪かみかわヌクモ職員

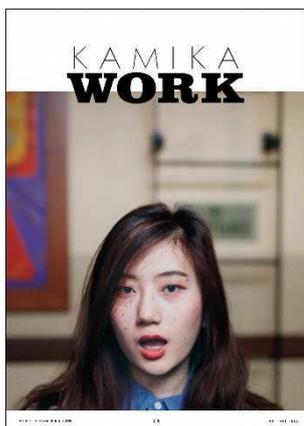
今後の展開

町では、こうしたプロデューサーの活動をサポートしていますが、取組当初は「プロデューサーが集まらないや、」思い描いていた活動との相違」など、難しい問題もたくさんあったといえます。今では、最初に来たプロデューサーが、

自らの活動を発信することで、新たな人を呼び込んでいます。

地域おこし協力隊の制度上、プロデューサーとしての活動期間は最長3年間で、その後は町内で起業して活躍することが期待されますが、実際、「しごと」で生計を立てていくことは難しいといえます。カミカワークプロジェクトが今後目指すのは、兼業や副業など多様な働き方を受け入れられる環境を整えていくことで、平日は企業勤めをしながら週末はアウトドアガイドとして働くダブルワーカーや、短期で訪れた人も働ける社会人インターンシップなども構想しています。

上川町では、今後も新しい働き方を始めたいと思っている人を迎え、新たな価値が生まれるまちづくりの取組として、上川町ならではのワークスタイル「KAMIKAWORK」を提案していきます！



▶ 上川町での「働き方」や「生き方」についての新しいスタイルを提案するフリーペーパー「KAMIKAWORK」

『なのみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～



ほっかいどうおくしりこうとうがっこう
北海道奥尻高等学校

しみず のぶひこ
清水信彦校長



おくしりちょう
奥尻町

檜山編

～なのみちカフェ～

鈴木知事が地域訪問する機会に、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様にその様子をお伝えします。

令和元年8月27日訪問

北海道奥尻高等学校編

第12号に続いてご紹介するのは、島全域が檜山道立自然公園に指定され、日本海の荒波が作り出した「なべつる岩」など、豊かな自然が魅力の奥尻町の「北海道奥尻高等学校」です。

今回知事がお話を伺ったのは、

清水信彦校長と6名の生徒の皆さん。奥尻高校は、平成28年に道立から町立へ移行し、平成29年から連携型中高一貫教育校としたほか、島外から島留学生の受入を開始。現在は在校生の半数以上が島留学生であり、奥尻島を丸ごと学校と位置付ける「まなびじま『奥尻』プロジェクト」を基に、地域を支える人材育成に向けて、奥尻ならではの特色ある教育活動を展開しています。

生徒の皆さんからは、実際に活動しているダイバーから学び、潜水士の資格取得に挑戦できるスクーバダイビングのプログラムがあること、高校生の目線で町の課題の解決策を考える町おこしワークショップや、漁師さんの元で暮らして仕事を体験して漁業について学んだことなど、学校での活動をプレゼンしていただきました。

また、町おこしワークショップでは、島の大きな宿泊施設がなくなることによって、観光シーズンに宿泊施設が足りなくなる可能性などをあげ、休館している旅館の再利用などの解決策を検討しているとのこと。

校長からは、様々な取組により課題解決能力を身に付けること、プレゼン能力を養うことと、自ら進んで学ぶ力を備えることを育むことが大切であるとの考えを伺いました。

また、島内に塾や予備校がないという状況を解決するため、インターネットを利用して島外大学の教員や学生から遠隔指導を受ける「Wi-Fi—ナー」という取組や、地域づくりに関わる活動を通じて、島外への遠征費用を募ることを目的とするオクシリイノベ

ーション事業部という部活動を立ち上げ、企業の方との話し合いなどの制作やオリジナルTシャツの販売を行うなど、特色ある取組を展開しています。

(※当日の知事の言葉から)

奥尻の環境を最大限活かし、未来に向かって挑戦し、実践することができる学校での時間は、人生の中でも尊いもの。

課題を解決できる人材として、奥尻島から世界に羽ばたいていくことを期待している。

今回訪問してお話を聞き、地域資源を磨き上げて、奥尻島の素晴らしさを発信できる地域だと改めて実感している。

皆さんの素晴らしい感性とまなびを実践していただいて、一緒に地域の発展に取り組んでいきたい。



奥尻高等学校の清水校長と6名の生徒の皆さんからお話を伺いました。





がつきこうぎょうかぶしきがいしゃ
オホーツク楽器工業株式会社



さいとう よしひで
齋藤義英代表取締役社長



なほみちカフェの動画などを掲載のホームページはこちらから



令和元年10月18日訪問

オホーツク楽器工業株式会社編

次にご紹介するのは、山々の豊かな森林資源を活用し、夢をキープードにしたむらづくりを推進している西興部村の「オホーツク楽器工業株式会社」です。

今回知事がお話を伺ったのは、齋藤義英社長で、同社は、世界屈指のエレキギターメーカーであるフジゲン株式会社の子会社として、多くのギターボディを生産しています。

エレキギター製造のきっかけを社長に尋ねると、「設立前には村内に大きな製材工場がありました。木材業の急激な変化もあって工場を閉めたという話が出ました。その工場では加工しやすい道産のシナノキという木材を使ってギターの原版を製作していたこともあり、西興部村出身の私に当時の村長から雇用の場が必要だとお話があり、平成2年に様々な方々に力をお借りしながら会社を設立しました」とのこと。

来年には創業30周年を迎える中、工場の従業員の年齢層は若く、大半は村外出身者という特徴がある同社、難しい状況でも音楽好きな若い世代に何かを残してあげたい

という気持ちで、日々取り組まれているとの意気込み。

社長は村内で福祉施設などの理事長も歴任されており、同席された菊池西興部村長は、若者の雇用の場の創出や福祉事業へのご理解、ご協力に感謝されていました。

また、社長は「今はギターのボディだけを生産していますが、音が出るまでこの工場で作りたいと長年思っていたところ、来年の4月にESPという専門学校でエレキギターの製作を学んだ2名が就職することになり、今後、完成品を作るという夢が叶います」と、とても嬉しそうにお話になります。

知事からは「例えば、来年の創業30周年とこの工場でのギター完成を記念し、ふるさと納税の返礼品として、限定モデルのギターを製作するの面白い取組」とお話ししました。

最後に社長からは「自分のふるさとを守っていくためにも若い人達に引き継ぎ、小さな力を大きな力に繋げたい」と、ふるさとや若い世代にかける思いをお聞きすることができました。

(※当日の知事の言葉から)

世界屈指のエレキギターメーカーとともに30年近く続けているものづくり。参加したいという人は、全国にもたくさんいる。地域産業の特色を活かして、西興部から世界に北海道ブランド、メイドインジャパンを発信するというのは非常に大きなことだと思ふ。

人口減少による課題が山積する道内で、若い人の活躍は重要。オホーツク楽器工場でのものづくりは、若者の移住・定住をはじめ、地域の活性化に大きく貢献するもの。

オホーツク楽器工業株式会社の齋藤代表取締役、菊池西興部村長から、会社の成り立ちなどをお伺いしました。



工場では、向井地工場長から楽器製造の工程などを説明いただきました。



2020年2月21日(金)～23日(日) ともに生き、ともに拓く



開催日程：2020年2月21日(金)：開会式
22日(土)：競技(予選/ディビジョニング)
23日(日)：競技(決勝/表彰/閉会式)

開催地：札幌市、江別市、岩見沢市

実施競技：開会式/閉会式(北ガスアリーナ札幌46)

(会場) アルペンスキー(Fu'sスノーエリア)

スノーボード(Fu'sスノーエリア)

フィギュアスケート(真駒内アイスアリーナ)

ショートトラックスピードスケート(真駒内アイスアリーナ)

クロスカンリースキー(飛鳥山公園)

スノーシューイング(飛鳥山公園)

フロアホッケー(北海道教育大学 岩見沢校)



Special Olympics Nippon
HOKKAIDO2020
National Winter Games



スペシャルオリンピックスとは

知的障がいのある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、知的障がいのある社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。

問合せ先：第7回スペシャルオリンピックス日本
冬季ナショナルゲーム・北海道事務局
(011-231-8055)

2020年 第7回スペシャルオリンピックス日本

冬季ナショナルゲーム・北海道

「創る」バックナンバーは、ほっかいどう応援団会議ポータルサイトへ

ほっかいどう応援団会議

検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp>

